

豊中市公共下水道事業認可
70周年記念誌

とよなかの下水道

令和3年度（2021年度）

豊中市上下水道局

An aerial photograph of Toyonaka City, Japan, showing a dense urban landscape with numerous high-rise apartment buildings, commercial structures, and green spaces. A major highway runs diagonally through the center of the image. In the background, a wide river is visible, and the city extends towards distant mountains under a clear sky.

豊中市公共下水道事業認可
70周年記念誌

とよなかの下水道

令和3年度（2021年度）

豊中市上下水道局



ごあいさつ

豊中市長 長内 繁樹

本市の公共下水道事業が始まってから、70年の節目を迎えました。

下水道の役割は家庭や工場で使って汚れた水をきれいな水にして、川や海に戻すことです。そして、私たちの住まいや街並みの生活環境を良くし、川や海の水環境を保全する水循環の大きな担い手でもあります。

また、雨水を素早く排出して街並みの浸水被害を防ぐなど、防災面での役割も欠かせません。

本市の下水道の整備は、豊中駅周辺の雨水による氾濫を防ぐための工事から始まりました。高度経済成長期を経て住宅都市として発展し、庄内町の編入による南部地域への市域拡大、千里ニュータウンの開発が進みました。それらに伴う施設の増設に力を注ぎ、猪名川流域下水道が誕生し周辺5市2町の下水処理を本市が受託することとなりました。

現在では約40万人を対象に、年間で6,940万㎡の水を2か所の処理場で担当しています。このように、下水道事業が発展を遂げてきましたのも、それに関わる職員の尽力と、市民の皆さまのご理解とご協力の賜物と感じています。

また、災害との関わりの歴史では、平成7年(1995年)に阪神・淡路大震災が発生しました。

本市の下水道施設でも254か所の甚大な被害が生じ、下水道部(当時)職員は発生当日から調査・復旧作業を開始し、市民生活を守るために奔走いたしました。

平成23年(2011年)の東日本大震災では、ライフラインに壊滅的な被害の出る自治体が多数に上りました。本市の上下水道局も、被災地の上下水道施設の復旧・復興支援のため出動いたしました。

近年では、異常気象ともいえる大雨が相次いでおり、今後も甚大な被害をもたらす災害が危惧されております。市民の安全・安心な生活を確保するという我々の行政としての使命を改めて認識し、下水道事業のさらなる充実と強化を図ってまいります。

現在、下水道施設は建設から維持管理の時代に入りました。水需要の減少や人口減少社会化の進行による、下水道使用料収入の減少や地球環境の変動による異常気象など、下水道事業を取り巻く環境は厳しいものがあります。

次の80年目、90年目の未来に向けて、先達が培ってきた技術を大切に継承するとともに、職員の創意工夫で下水道事業に新たな価値を見出し、環境保全に配慮しながら、持続可能な社会づくりを進めてまいります。

発刊にあたって

豊中市上下水道事業管理者 吉田 久芳



令和3年(2021年)7月2日をもって、本市公共下水道事業が厚生省(当時)の認可を受けてから70年が経過しました。認可70周年に臨み、今日まで公共下水道事業に対して温かいご支援とご協力をいただいた市民の皆さま、関係者の皆さま方に心より感謝を申し上げます。

記念事業としてマンホールふたのデザイン募集など、下水道に関心をもっていただけるイベントの実施と併せて、記念誌の発行に取り組みました。事業の歩みを振り返り、80周年、90周年そして100周年を見据えたさらなる発展につなげていきたいと思っています。

さて、本市公共下水道の歴史は、昭和26年(1951年)に認可を受けた新免地区(豊中駅周辺)の雨水排除の事業に始まります。その後、急速に市街化が進む中で、河川の水質改善やトイレの水洗化に対応すべく、下水処理場の建設と下水道管の整備を集中的に進め、平成当初には全国に先駆けて、下水道普及率がほぼ100%に達しました。その後、大阪国際空港が水没した平成6年(1994年)の集中豪雨を経験した事で、家屋の床上浸水など、相次ぐ浸水被害への対応が喫緊の課題となり、現在は大口径の雨水バイパス管の整備に取り組んでいるところです。そのほか、雨天時における合流式下水道の改善(河川等への汚水のおふれ出

しの防止)の取り組みや、近年は予防保全の観点から計画的な建物、設備、下水道管の更新や長寿命化に取り組んでいます。なお、長らく下水道事業を担ってきた豊中市下水道部は、平成20年(2008年)に水道局と統合し豊中市上下水道局となり、地方公営企業として今日に至っています。

振り返ればこの70年は、次々に発生する新たな課題への挑戦の歴史でした。諸先輩方は、実直に、そして時宜に合った的確な対応を進めて来られました。その技術力や仕事への熱意には素直に感謝を申し上げたいと思います。

100周年までの間には、老朽化が進む下水処理場への本格的な対応や、膨大な下水道管の更新などの難題が待ち受けています。これらと並行して脱炭素化の取り組みも重要です。人口減少等により経営環境もますます厳しくなりますが、70年の歴史に学び、しっかりと技術を継承していくことが必要です。また、大阪府や兵庫県、猪名川流域下水道関連市町等との広域的な連携を強め、民間事業者の技術をしっかり活用しながら、公共下水道の社会的使命を全うしていかなくてはなりません。

市民の皆さま、関係者の皆さま方には、より一層の温かいご支援・ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

庄内下水処理場

所在地 豊中市大島町3丁目9番1号

敷地面積 35,950㎡

計画処理面積 1,151.9ha

計画処理人口 122,500人

計画処理能力 1日当たり77,700㎡

処理方法

- 活性汚泥法 (2/3)
- 凝集剤併用型循環式硝化脱窒法 (1/3)

放流河川 神崎川 (一級河川)



沈砂池、スクリーン



雨水ポンプ



高度処理反応タンク



反応タンク



最終洗でん池



中央監視室



水質試験室



放流口



グリーンスポーツセンター

小曽根第 1 ポンプ場



所在地 豊中市豊南町南 5 丁目 1 番 2 号

計画雨水排水能力 1 時間当たり 27,058 m^3

敷地面積 2,630 m^2

計画雨水排水面積 129.07ha

小曽根第 2 ポンプ場



所在地 大阪市淀川区十八条 3 丁目 16 番 46 号

計画雨水排水能力 1 時間当たり 42,707 m^3

敷地面積 2,430 m^2

計画雨水排水面積 114.53ha

穂積ポンプ場



所在地 豊中市穂積 2 丁目 16 番 30 号

敷地面積 5,160㎡

計画雨水排水能力 1 時間当たり 60,415㎡

計画雨水排水面積 180.50ha

桜井谷ポンプ場



所在地 豊中市桜の町 2 丁目 9 番 1 号

敷地面積 3,800㎡

計画雨水排水能力 1 時間当たり 2,966㎡

計画雨水排水面積 3.78ha

計画汚水排水能力 1 時間当たり 784.8㎡

計画汚水排水面積 287.26ha

利倉ポンプ場



所在地 豊中市利倉 2 丁目 15 番 1 号

敷地面積 9,240㎡

計画雨水排水能力 1 時間当たり 108,000㎡

計画雨水排水面積 297.03ha

千里園ポンプ場



所在地 豊中市蛍池南町 1 丁目 22 番 30 号

敷地面積 5,830㎡ (場内公園含む)

計画雨水排水能力 1 時間当たり 32,314㎡

計画雨水排水面積 67.96ha

新免ポンプ場



所在地 豊中市本町 9 丁目 248 番地

計画汚水排水能力 1 時間当たり 115.2 m^3

敷地面積 280 m^2

計画汚水排水面積 8.87ha

熊野田南中継ポンプ室



所在地 豊中市西泉丘 2 丁目 2432 番地の 2

計画汚水排水能力 1 時間当たり 32.4 m^3

敷地面積 67 m^2

計画汚水排水面積 13.81ha

猪名川流域下水道原田処理場

所在地 豊中市原田西町 1 番 1 号

敷地面積 316,800㎡

計画処理面積 11,383ha

計画処理人口 721,700 人

計画処理能力 1 日当たり 363,200㎡

- 処理方法
- 第 1・2 系列 標準活性汚泥法
 - 第 3 系列 A ～ D 列
嫌気無酸素好気法による高度処理
＋急速ろ過池
 - 第 3 系列 E 列
凝集剤併用ステップ流入式
多段硝化脱窒法
＋急速ろ過池

放流河川 猪名川（一級河川）



管理棟



スカイランド HARADA





豊中市公共下水道事業認可70周年記念誌